

虹色の谷から

ステイホームDAYS...

新型コロナウイルスが各地でまだまだ猛威を振ったまま、季節は春を迎えようとしています。楽しみにしている外出や帰省についても、なかなか思うようにできず、我慢の日々が続きました。ステイホームが施設でも続く中、せめて行事に全力を尽くそう...

ということで、いろんなイベントを行いました。中でも、秋に開催した「ハロウィンパーティー」は一番の盛り上がりを見せていました。パーティー会場の飾りつけにと何か月も前から飾り作りに励みました。利用者さんの作った作品があまりにも素敵で、職員も闘志メラメラ🔥定番のかぼちゃだけではなく、まさかまさかのかぼちゃの馬車まで完成し、当日会場は「ここ、どこ？」と思うほどの仕上がりになりました。

まるで、おとぎの国にでもきたかのよう...

グループ別におやつ探しをし、盛り上がった後、某有名アニメのキャラクターに扮したスタッフとの撮影会♡利用者さんもスタッフも、大はしゃぎの楽しい一日となりました。その他にも、12月にはクリスマス会を、1月には初詣、2月には節分というように、毎年恒例の行事も楽しみました。3月より、外出、面会も制限があるものの可能になり、みなさんとともに楽しみにしておられます。自粛中は、ご様子うかがいのご連絡や、さみしがらないようにとさせていただきますお心遣い...本当に感謝しています。ご家族に支えられながら32名、みなさん笑顔で元気に過ごしておられます。一日も早く、日常が戻ってくることを、心から願っています。



うまいっ♡



アマビエ
ゴーストたち



某アニメキャラ
と



第41号

第二やすらぎの郷
小浜市深谷10-1-4
令和3年3月3日



児童ユニットの ちょっぴり小話

私の知っているお子さんで「0くん」という、ボタンが苦手なお子さんがいました。0くんはボタンがついた服は徹底的に避け、保育園のスモックすら着られなかったとのこと。ある日、親戚の結婚式にお呼ばれし、お母さんが準備していたのは黒の美しいタキシード。「これ着るからね」と事前に伝え、迎えた当日、0くんはどうしても嫌だとゴロゴロ転がりながら泣きわめいたそうです。でも親戚の一生に一度の日...私服で出るわけにはいかない...お母さんは何とか言い聞かせ、泣きじゃくる0くんを半ば強引にタキシードを着せたそうです。「この子は一生ボタンの服が着れないのだろうか...」「いつか迎える小学校、制服はボタンだけど、大丈夫だろうか...」心配になったお母さんは、知っている作業療法士さんにこの件を相談しました。すると、作業療法士さんより、こんな言葉が返ってきました。「0くんは本当にボタンが嫌いなのかな？ボタンそのものに恐怖や嫌悪を示しているのか、それともボタンが上手くはめられないから嫌っているのか、どちらなのでしょうね。」と聞かれ、「はて？」と思ったお母さん。お家に帰ってから0くんにきいてみました。すると返ってきたのは全く盲点な返答。「だって一番上(ボタン)が難しいんやもん。」そうなんです。みなさん知っていましたか？一番上、難しいんです(笑)手元も見にくいですし、ボタンってものによっては一番上の穴だけ横についているものがあるんです。同じようにしていてもどうしても一番上が上手にはめられず、結果苦手意識ができてしまったのでしょうか。その後の0くんはどうなったかって？5歳になった0くんは練習を重ね、一番上のボタンがはめられるようになりました。自信を持った0くん、今ではいろんなボタンの服を楽しんでいるようです。私たち児童ユニットのスタッフは、その子が本当に不快なのか、それともできないからしようにしないのか、十分見極めながら支援にあたっています。昨日できなかったことが、今日できるようになった瞬間はいつになってもたまらなく嬉しい瞬間です。児童ユニットは今後も一人一人に寄り添い、成長段階にあわせた支援をしてまいります。児童ユニット、ちょっぴり小話でした。(文責：横山)